

August 2016

Bowers & Wilkinsがリファレンス クオリティのサウンドを一新

オーディオ・パフォーマンスの新たな基準を確立するBowers & Wilkinsの800 D3



新たな800シリーズDiamondのフラッグシップモデルである800 D3は、新シリーズのために開発された革新的で画期的なテクノロジーを究極にまで発展させたもの。Bowers & Wilkinsが生んだ最高のスピーカーです。

Bowers & Wilkinsの最新スピーカー800 D3は、リファレンスクオリティ・サウンドを一新するものと言えます。Bowers & Wilkinsがこれまでに生み出したスピーカーの中でも最高のパフォーマンスを誇る最先端の製品であり、創業者ジョン・パウワーズが掲げた「真のサウンド」という目標にBowers & Wilkinsがかつてなく近づくという意味で、Bowers & Wilkins 創立50周年を迎えるにふさわしい新製品です。

この新たな800シリーズDiamondは、昨年末の発売以来、800シリーズはもとよりプレミアム・ラウドスピーカーのパフォーマンスレベルを一新するものとなりました。最高のものをさらに向上させようと7年にわたり徹底して取り組んだ成果である800シリーズDiamondは、精力的な研究開発を積み重ね、先進的エンジニアリングを駆使し、そして業界最高レベルの専門家が多くの時間を費やして実際に耳で聴くことで生み出したものです。シリーズのフラッグシップモデル800 D3の登場によって、達成すべき目標が再び引き上げられました。

新登場の800 D3と802 D3との明白な違いは、キャビネットのサイズ、そしてバス・ドライバーの口径です。いくらか小さめの802 D3には8インチ・ドライバー2基が搭載されているのに対して、800 D3には10インチのバス・ドライバー2基が搭載されています。サイズが大きいだけではありません。更なる高剛性とワイドなピストン・モーションを備えたコーンを実現した独自のカーボンファイバー構造を採用、直線性と低歪みを確保するよう最適化されています。ドライバーは、よりコントロールを図り、クロスオーバーを向上するためにマグネットを改良し、更にハイスpek的な磁気回路により、802 D3のパフォーマンスを大幅にアップグレードしたものとなっています。

エアロfoil・ドライバーのダストキャップは、802 D3および803 D3のコンポーネントを強化したもので、カーボンファイバーおよびエアロfoil・コーンと同じシンタクティックフォームを用いたサンドイッチ構造になっています。これにより、ダストキャップの共振を一層低減させることができました。一見したところ些細な進歩や微調整のひとつではありますが、そうした数々のマイナーチェンジは、細部にまで信じ難いほどの注意を払い、あらゆる手を尽くして800 D3を生み出したことを物語るものです。

その他においては、800 D3は、802 D3と同じサイズのコンティニューム・コーン、タービンヘッド、ソリッドボディ・トゥイーター・アセンブリーを使用しています。とは言え、クロスオーバーとキャパシタの改善により、こうした重要な領域のレベルも上がり、800 D3の優れた低音域のパフォーマンスによりふさわしいものとなりました。このようにあらゆる改変が行われたとは言え、800 D3は、802 D3と同様のインピーダンス特性と感度を備えています。

こうしたイノベーションとともに、たとえば、剛性が大幅に向上したキャビネット、厚みを増したスラットなど、より頑強なマトリクス補強構造システム、さらには必要に応じてよく考えられたアルミニウムとスチールの補強材の使用など、数々の改良がシリーズ全体に加えられたことで、新モデル800 D3は、至福のリファレンスクオリティ・サウンドを象徴するものとなりました。低域ドライバーのさらに大きなものが市販されていることは明らかですが、最新の800 D3の主要な音響特性は、容易さと正確さの2点です。低音域の正確さは驚くべき水準であり、既に傑出したスピーカーと言える802 D3と比べても、低域ドライブユニットの歪みは10dB低減されています。

またスケール感についても、旧モデルの800 Diamondに比べて劇的に改善されており、800 D3はフルサイズのシンフォニーオーケストラを見事に難なく再生することができます。これは、スケールが拡大されたこと、ドライブユニット4基の編成が改良されたことに加えて、800 D3のみならず800シリーズDiamond全モデルにおいてこうしたドライブユニットの新技术によりレゾリューションが上がり、ディテールが増したためです。

常にクラスをリードするスピーカーを生産したいというBowers & Wilkinsの強い熱意の証として、とりわけ新しい800シリーズDiamondの生産に向けて、英国ウェストサセックス州ワーシングにある最新製造工場の再編が行われました。800 D3は、他のシリーズモデルとともに、最新の施設ですべてが製造されています。

こうした長年にわたる努力、細部への絶え間ない注意、そして多額の投資の成果である800 D3は、品揃えを誇るスピーカー・シリーズの価値あるフラッグシップモデルであるのみならず、Bowers & Wilkinsの最高傑作と言えるスピーカーです。最新の800 D3はまた、ジョン・パウワーズが50年前に創業したBowers & Wilkinsに、創業者である彼の情熱と意欲がいかに存続しているかを想起させるものでもあります。

テクノロジー

エアロfoil・コーン

時に新しいテクノロジーは、エンジニアリングにおいて数年前であれば不可能であったことを実現可能にします。まさにその好例がエアロfoil低音域コーンです。先進的コンピュータ・モデリングを駆使するとともに、コアに新しいシンタクティック素材を用いることで、コーンの厚みに変化を持たせ、必要などころに最大限の強度が確保できるようにしました。こうして形状を最適化することで、コーンのピストンモーションは可聴域のさらに上まで広がり、正確かつコントロールされた臨場感溢れる低音が再生されます。



タービンヘッド

聴くのはサウンドであって、キャビネットの響ではない。これが、1979年に発売となった初代800シリーズのスピーカーに搭載された分離型ヘッドユニットの指針でした。最新800シリーズDiamondではデザインを抜本的に見直すことで、今までにない性能のヘッドユニットを生み出しました。無垢のアルミニウム製のタービンヘッドは、スリムな流線型の形状で、内部に放射線状のフィンを備え、ほぼ無振動のプラットフォームを実現、キャビネット・カラレーションのないサウンドを再生します。



ソリッドボディ・トゥイーター

振動は、優れたサウンドを生み出す上での障害です。振動を最小限に抑えるには、可能な限り剛性の高いコンポーネントが必要です。800シリーズDiamondでは、過去最高の高剛性を誇るトゥイーター用筐体を実現しました。新シリーズのトゥイーター・アセンブリーを格納する筐体は無垢のアルミニウムで、改良されたジェル・デカップリング・システムにより、トゥイーターはキャビネットの共振の影響を受けません。その結果、鮮明なサウンドディテールを再生、演奏に対する見識もさらに深まるでしょう。



コンティニウム・コーン

数十年の間、ケブラーに勝るミッドレンジ・コーン素材はないと考えていました。しかし8年に及ぶ徹底的な開発を経て、ついに優れた素材に行き着きました。それがコンティニウム・コーンです。コンティニウム・コーンは、その複合構造によって、従来型のドライブユニットのパフォーマンスを損ないかねない非連続的な挙動の変化を回避でき、オープンでニュートラルなパフォーマンスを実現します。加えて、スピーカーのデザイン面でも大きな飛躍を遂げました。また800シリーズDiamondでは、コンピュータ・モデリング技術を用いて、ミッドレンジ・シャーシのデザインを一新しました。新しいシャーシは、優れた高剛性を目指して設計されており、さらにチューンド・マス・ダンパーが不要な振動を最小限に抑える一助となっています。

リバースラップ・キャビネット

800シリーズDiamondのキャビネットの設計に当っては、理想的な形状を求めて、まさしく文字通り180度の転換を図りました。正面がフラットで背面が曲線のスピーカーを卒業して、正面から両側面にひとつの連続曲線を描くキャビネットを生み出しました。一枚板の強固なアルミニウム製背板で一体化し、継ぎ目を減らすことによって、高剛性・低振動のキャビネットを実現。正面が曲線になったことでドライブユニット周囲の反射が減少し、音の分散が改善されて、キャビネット・リフレクションも軽減されました。

マトリクス

マトリクスは、スピーカーのバックボーン役を担うものです。マトリクスは船体の補強のような機能を果たす内部構造で、交差し、格子状になったパネルがキャビネットを振動しないように固定しています。800シリーズDiamondでは、最先鋭の新しいマトリクス・コンセプトを取り入れました。内部パネルはより厚みを増し、MDFに代わってより強度のある合板を採用、負荷のかかるキーポイントは金属部品で補強しました。こうして生まれたのが、Bowers & Wilkins最強の剛性を誇るマトリクス・システムです。

台座

高品質のスピーカーには、頑強な土台が必要です。800シリーズDiamondでは、クロスオーバーを台座からスピーカー本体に移動して、これまで以上の安定性と耐共振性を確保した土台を実現しました。新しい台座は、これまでのオープンボックス・デザインに代わって、アルミニウムの一枚板でできています。これにより重心が下がり、タービンヘッドの重さが相殺されることで安定性が増しました。

大型の800 D3の土台には、スピーカーの移動が簡単に行えるよう、キャスターが付いています。これまでは、キャスターをフロアスパイクに取り替えるには、スピーカーを横に寝かせなければならず、厄介な作業でした。最新800シリーズDiamondスピーカーではこの点を改善、フロアスパイクを台座に組み込み、歯車を回すだけで上げ下げができるようにしました。

ダイヤモンド・ドーム

なかには変わらないものもあります。800シリーズDiamondはほぼ全面的に刷新されましたが、シリーズ名の由来となっている要素は変わっていません。つまり、ダイヤモンド・トゥイーター・ドームです。Bowers & Wilkinsのダイヤモンド・ドームは、サウンドのディテール、自然さ、そして空間的広がりにおいて他に追随するものはなく、トゥイーター技術の最高峰であり続けています。

ダイヤモンド：究極の素材

ダイヤモンドの特性は、脳神経外科から欧州合同原子核研究機構 (CERN) の大型ハドロン衝突型加速器に至るまで、極めて専門性の高い工業用途に重用されています。軽量でありながら硬質であるという特性を持つダイヤモンドは、トゥイーターの素材として最適です。特に800シリーズDiamond用に開発されたダイヤモンド・トゥイーター・ドームは、高域共振周波数を驚異の70kHzにまで押し上げ、驚くほどのクリアさとディテールの再現性を実現しました。

自然界でダイヤモンドが生成されるには、非常に高い圧力と高い温度、そしておよそ20億年もの長い年月が必要です。幸いなことに、その近道が科学によって発見されました。ダイヤモンド・ドームは、化学気相蒸着を用いて実験室条件下の超高温加熱炉の中でクリスタルのように成長したものを、完璧なトゥイーター・ドームの形状に裁断して作ります。



Specification

800D3



技術的特徴:	ダイヤモンド・トゥイーター コンティニューム・コーンFST アンチ・レゾナンス・プラグ エアロfoil・コーン・ベース・ユニット フローポート タービン・ヘッド オプティマイズド・マトリクス ソリッド・ボディ・トゥイーター
仕様:	3ウェイ・バスレフ型
ドライブ・ユニット:	1 x 25mmダイヤモンド・ドーム・トゥイーター 1 x 150mmコンティニューム・コーンFSTミッドレンジ 2 x 250mmエアロfoil・コーン・ベース
周波数レンジ:	13Hz~35kHz
周波数レスポンス: (基準軸に対し±3dB)	15Hz~28kHz
感度(軸上2.83Vrms):	90dB
高調波歪:	2次及び3次高調波(90dB軸上1m) <1% 50Hz~20kHz <0.3% 70Hz~20kHz
公称インピーダンス:	8Ω(最低3.0Ω)
寸法:	高さ: 1217mm 幅: 413mm 奥行: 611mm
質量:	96kg
仕上げ:	キャビネット グリル ローズナット ブラック グロス・ブラック ブラック

登録商標
FST及びFlowportはB&W Group
の登録商標です。

希望小売価格	税込価格(税抜価格/1本) ¥2,295,000 (¥2,125,000) ローズナット ¥2,430,000 (¥2,250,000) ピアノ・ブラック
--------	---

問い合わせ先 : (株)ディーアンドエムホールディングス
ディストリビューター営業部
〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町2-1
<http://dm-importaudio.jp/>